

## 第七回日本モビリティ・マネジメント会議 開催案内

- 主催：一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議
- 会場：富山県富山市 富山国際会議場
- 共催：(社)土木学会、富山市、(株)新日本コンサルタント
- 後援：国土交通省（予定）ほか
- 日時：2012年8月3日（金）～8月5日（日）
- 趣旨：

モビリティ・マネジメント（MM）は、社会心理学や社会学などの「学術的」な知見を基盤とした、人々にコミュニケーションで働きかけることにより交通行動の自発的な変化を促す「実務的」な交通施策です。我が国におけるMM施策が今後も効果的・広範に推進されることを目指して、行政、大学、コンサルタント等のMM関係者が一堂に会する日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）の第七回会議を開催いたします。

### ● 発表申し込み：

下記をJCOMM web ページ内の発表申込フォーム ([https://ssl.alpha-prm.jp/jcomm.or.jp/form/7th\\_presentation.html](https://ssl.alpha-prm.jp/jcomm.or.jp/form/7th_presentation.html)) に記入のうえお申し込みください。

- ①発表者・連名者の氏名・所属/勤務先、②代表者連絡先（氏名、住所、tel、e-mail）、③MMで使用したツール展示の希望、④発表タイトル、⑤発表概要（800字以内（厳守）で a) 背景と目的 200字程度、b) プロジェクトの内容 200字程度、c) 効果 200字程度、d) 結論 200字程度を記載）、⑥キーワード
- ※ 発表申込締め切り：2012年4月13日（金）

締め切りは過ぎておりますが、発表希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。

※ 発表形式にはポスター発表（ポスター掲示と説明）、口頭発表（スクリーン形式での口頭発表）の2通りありますが、個々の発表の形式については、プログラム編成の都合により、JCOMM 実行委員会にて検討させていただきます。

### ● 参加申し込み：

下記をJCOMM web ページ内の参加申込フォーム ([https://ssl.alpha-prm.jp/jcomm.or.jp/form/7th\\_entry.html](https://ssl.alpha-prm.jp/jcomm.or.jp/form/7th_entry.html)) に記入の上お申し込みください。

- ①氏名、②所属/勤務先、③連絡先（住所、tel、e-mail）
- ※ 参加申込締め切り日：2012年7月20日（金）
- ※ 参加費無料・資料代3000円

### ● 詳細：URL：<http://www.jcomm.or.jp/>

### ● 問い合わせ先：

京都大学大学院JCOMM事務局（担当：藤井・豊茂・前岡）  
e-mail: [info@jcomm.or.jp](mailto:info@jcomm.or.jp)

満開の桜に春の到来をひしひしと感じる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。新入生や新入社員を迎え、気持ち新たに新年度をスタートさせたという方も多いかと思えます。



今回のJCOMM通信は、第七回日本モビリティ・マネジメント会議開催の中心にお届けします。

本年八月三日（金）、四日（土）、五日（日）に富山で開催を予定している第七回日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）の詳細が決まりました。本会議では、本年度取り組まれたMMの成果はもちろんのこと、現在構想中のMMの計画や、MMに関連する各種の制度的/研究的な提案や自由なアイデア等、多様なご発表の申し込みをお待ちしています。MMについて多面的に議論できる、年に一度の機会です。左記をご参照の上、ぜひお申し込みください。皆様に富山でお会いできることを楽しみにしております。

## イベント案内 第七回JCOMM開催のお知らせ



日本モビリティ・マネジメント会議  
ニュースレター

Vol.23 ● 2012. 3.31

【発行】 JCOMM実行委員会  
ニュースレター編集部  
【お問合せ】 筑波大学 谷口綾研  
大阪大学 松村研

mail: [info@jcomm.or.jp](mailto:info@jcomm.or.jp)

MMに関連する会告掲載希望やご意見等、随時受け付けております。

## JCOMM法人会員紹介

### Vol.8 一般財団法人 計量計画研究所

みなさんこんにちは！ 計量計画研究所は都市・地域、社会基盤、経済・産業、生活・言語・価値意識等の諸分野の計画策定に関する計量的調査研究を行うシンクタンクとして、一九六四年に設立され、来年五十周年を迎えます。

『全てのプロジェクトにMMのDNAを！』をモットーに、日々MMの普及、技術革新、技術交流、プラットフォームづくりに励んでいます。

縮退都市プランニング、少子高齢化社会のモビリティデザイン、都市圏交通ビジョンづくり、エコ

通勤の国民運動支援、賢い道路の使い方支援、モビリティマーケットリサーチ、健康と交通の調査研究（自主研究事業）、学校教育とMM研究（自主研究事業）、MM技術交流（公益事業）他、職員一丸となり、MMによる『コミュニティ』の形成に貢献すべく邁進中です。

MMの基礎技術に関する技術講習会を本所主催で東京で開催しております（今年六月一日と一九日を予定）。MMスペシャリストによる講師陣が二日間集中講義を行います。開催の詳細は本所HPで公表予定ですので、振るつての参加をお待ちしております。



▲ 写真 MM技術講習会の様子（IBS主催）

ニッポンのMM  
第十八回 コミュニケーションを  
通して図る  
松江のMM

松江市は、小泉八雲が『日本の面影』のなかで「神々の国の首都」と評したように、今日でも他者や地域との関係を重視する社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）が色濃く残る地方都市の一つです。

松江市のMM活動は、人口減少社会の中でクルマ中心の暮らしがもたらすリスクを減らすためにもう一度コミュニケーションを通じた社会関係の構築によって公共交通の維持を図ろうというものです。このため、公共交通維持に関する計画の策定段階から官民一体で取り組み、大小二十回以上の議論を重ねました。計画完成時には、相互に信頼関係が醸成され、策定組織は「公共交通利用促進市民会議」へ発展的に移行し、MMも含めた計画を実施する推進力になりました。そして、「できることから、できるペースで、できる人から」をスローガンに取り組みを広げています。

例えば、ノーマイカーウィーク（通勤MM）の参加企業には、「具体的取り組み内容」の明確化と、後日その効果の検証を行い、取り組みの継続化を図っています。企業の主体的な取り組みを評価することで、協力企業は三年間で九十社を超えました。住民MMに参加した地域では、復路にバスを利用するハイキングの開催、バスの広報誌発行など

自発的な活動も生まれました。

今後は、持続可能な「暮らし方」とそれに調和する将来の「まちの形」を、MM同様コミュニケーションを通じて考え、これを実現していきたいと考えています。

（松江市公共交通利用促進市民会議会長  
飯野公央（島根大学）



▲ 写真 住民MMを実施した法吉公民館区で発行されている会報

これまでのパーク&ライド等の交通社会実験は、「参加する人が損をする」。協力してくれた人の犠牲の上に成り立っており、実験が終わるとまた元に戻ってしまう。

二〇〇四年、そんな疑問をもって始まった京都府のTDM。それは三年間の期限付きプロジェクト。成果が出なければ自動的に消滅する。

交通は派生需要であり、私たちの暮らしがりの結果が今の状態。つまり交通問題の解決には私たちの暮らしやまちの構造から見直さなければならぬ。公共交通の整備にはお金も時間もかかる。お金も、体制も、時間もない中で目に見える成果を上げる…その選択肢はモビリティ・マネジメントしかなかった。

京都の大学の先生方からなるアドバイザー会議を設け、基本計画を庁内外の関係者からなる推進会議で策定。このプロセスを通じ、交通事業者、国、自治体、警察の担当者、そして商工会議所も一緒に学習をすることで、課題を共有し政策のベクトルが同じになった。二〇〇五年から始まった宇治の職場MMを皮切りに局地戦で連戦連勝！

ある時、バス会社の業務課長さんが「ダイヤもルートも変え

私とMM

第2回：京都府交通政策課 村尾俊道

桂枝雀は「心は三層からなる」と言ったとか。「心」の一番の芯は「魂」であって、その次に「心」があって、その周りに「気」というものがあると。「魂」を揺さぶるには、まず「気」をひいて、「心」に届いて、もう一段中に入ると「心をうつ」。さらに、力があまっていけば「魂をゆさぶる」と。…デザイン力が人々の「気」を引いたことに他ならない。それ以降、「デザインが交通行動を変える」という確信がある。

限られた人員と予算の中で新しい施策を実施するには、これまでの事業の棚卸しをし、業務の優先順位を考えることから始めなければならぬ。周到なデータ分析と共に、少なからぬ「大風呂敷」と「自信」も必要。

AKB48でアイドルになれるかどうかの分かれ目は、「根拠のない自信」を持っているかどうかだとか。信じるモノはきつと救われる！ そして本気でやれば、感動が待っています！